

---

---

## 島根県立松江農林高等学校 DX ハイスクール事業

(農業データと土木等データを活用した AI・データ分析授業:2026 年 2 月 10 日実施)

---

---

### ■ 授業内容の概要

本授業は、島根県立松江農林高等学校における DX ハイスクール事業の一環として、生徒が AI やデータを正しく理解し、農業・土木分野と結び付けて考える力を身に付けることを目的に実施しました。

授業ではまず、外部の実務家データサイエンティストを講師に招き、AI やデータサイエンスの基本的な考え方について、身近な例を交えながら分かりやすく解説が行われました。

あわせて、AI が得意なこと・苦手なことや、誤った情報を生み出す可能性がある点などにも触れ、安全に活用するためのリテラシーを学べるカリキュラムとなりました。

次に、農業や土木の現場で実際に活用されているデータや AI の事例が紹介され、データ分析が現場の課題解決や効率化にどのように役立っているのかを具体的に示されました。

また、架空のデータを用いたワークやミニ演習を通して、データから読み取れること・読み取れないことを考える体験を行い、数値や結果をそのまま信じるのではなく、自身で考え判断する姿勢の重要性を学ぶ授業となりました。

本授業を通じて、生徒は AI やデータを「特別な技術」ではなく、自分たちの学びや将来に活かせる身近な道具として捉え、今後の探究活動や進路選択につながる基礎的な理解を深めました。



### ■ 学習成果のハイライト

#### AI やデータに対する理解が深まった

生徒は、AI やデータサイエンスを単なる便利な技術としてではなく、仕組みや限界、注意点を含めて正しく理解することができました。特に、AI が誤った情報を生み出す可能性について学んだことで、情報を鵜呑みにせず、自分で確かめる姿勢が育まれました。

#### 農業・土木分野とデータ活用を結び付けて考えられるようになった

授業を通じて、生徒は農業や土木の現場でデータや AI がどのように活用されているかを具体的にイメージできるようになりました。自分の学科や将来の仕事と結び付けて考えることで、学びを「自分ごと」として捉える姿が見られました。

#### データを読み解き、考える力が向上した

架空データを用いたワークでは、データから分かること・分からないことを区別する演習を行い、数字や結果をそ

のまま信じるのではなく、背景や理由を考える力を養いました。

### 生成 AI を安全に活用する意識が高まった

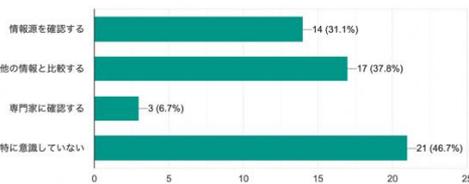
生成 AI を実際に操作する体験を通じて、利便性だけでなく、著作権や個人情報への配慮の重要性についても理解を深めました。

AI を「正しく使う」意識が生徒の中に定着しつつあります。

## ■ 生徒の声やアンケート結果の要約

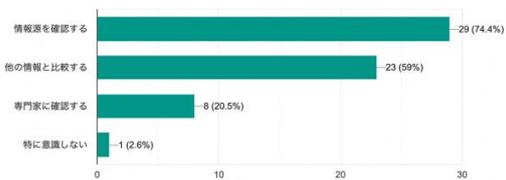
### 授業前

Q.8 AIの回答を利用する際に、意識していることはありますか（複数選択可）  
45件の回答



### 授業後

Q.8 授業を踏まえ、今後AIの回答を利用する際に、意識すべきことはありますか（複数選択可）  
39件の回答

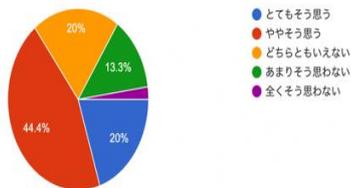


授業前に行ったアンケートでは約半数の生徒が、AI の回答に対して「特に意識していない」と回答。

授業後には AI の特性を理解し、安全に AI を利用するためのリテラシーが高まりました。

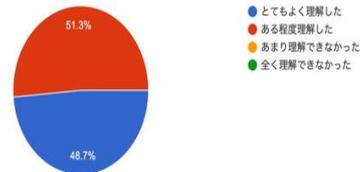
### 授業前

Q.11  
あなたは生成AIの「危険性（例：ディープフェイク、個人情報、著作権など）」を理解していますか。  
45件の回答



### 授業後

Q.11  
授業を踏まえ、あなたは生成AIの「危険性（例：...情報、著作権など）」をどの程度理解しましたか。  
39件の回答



また、生成 AI の危険性についても授業後には多数の生徒が理解を深めた結果となりました。

### 生徒の声（抜粋）

- ・これからは AI と共に生きる社会になると思うけど AI を上手に使える人になりたいです。
- ・生成 AI を活用するためには扱う自分たちも正誤の判断をしながら使っていく必要があるんだとわかりました。
- ・はじめは分からないことが多く難しかったのですが、自分なりに AI を活用して取り組むことができ良かったです。
- ・これから重要になってくるからいい経験だった。

など、AI への理解や興味、もっと学びたいといった声が見られました。

AI を単なる便利な道具としてではなく、特性とリスクを理解し、情報の真偽を検証する活用能力と、法的・道徳的な倫理観を実操作を通じて深く学ぶことができた授業となりました。